



Next Legend

日体大学のレスリングの歴史にまた新たな伝説が生まれた。
さらなる高みに向けて、その勢いが止まらない。



日体大と伝統競技

レスリング、体操競技、柔道等、日体大が伝統的に強みを発揮してきた競技は数多い。パリオリンピック・パラリンピックの興奮が冷めやらぬ中、日体大が誇る伝統競技「相撲」で、またひとつ輝かしい記録が打ち立てられた。

大相撲の大の里関（本名 中村 泰輝・二所ノ関部屋所属・スポーツ文化学部武道教育学科卒）が、令和6年9月場所（2度目の優勝を決め、大関昇進を果たした。初土俵から9場所での大関昇進は昭和以降で最速である。また、令和6年5月場所での優勝も、幕下付け出しの力士では史上最速だった。

2年続けてアマチュア横綱に輝くなど、日体大時代に13の個人タイトルを手にし、幕下10枚目格付け出しで令和5年5月場所デビュー。同年秋場所に新十両、令和6年初場所に新入幕、5月場所（小結、7月場所）で関脇と、圧倒的な強さでスピード出世を遂げた。日体大相撲部の4年間で、齋藤一雄監督の指導のもと、大の里関は現在の活躍の基盤を

築いたと言える。

日体大相撲部は1923年に関東学生連盟に加盟、1925年に部活動として正式に承認された。約100年の歴史の中で、学生選手権・団体優勝7回をはじめ、学生横綱・世界選手権・全日本選手権・全国体重別の優勝者を多数輩出している名門である。現在、日体大出身の力士は、大の里関を含めて16名が角界で活躍している。

さて、今年の能登半島地震では、大の里関の出身地である石川県津幡町も被害を受けた。大の里関は石川県をたびたび訪れ、被災地の人々を励まし続けている。5月場所優勝後には、津幡町で優勝祝賀パレードも行われた。大の里関の活躍が地元を大いに勇気づけたことは言うまでもない。能登地方では9月には豪雨による甚大な災害も発生した。一日も早い復興を願ってやまない。

大の里関は、大関昇進伝達式で「唯一無二の力士を目指す」と力強く口上を述べた。これからも角界の歴史を塗り替える活躍が楽しみだ。災害の困難や不安の中で、令和の人々の希望の星として、新しい時代を切り拓いてくれることを確信している。

日体大を
極める
Episode 15



日体大相撲部



大関昇進を決めた大の里関



78

支える、支えられる

▷パリ2024では、日体大勢がオリンピックとパラリンピックを合わせて15のメダルを獲得した。中でも、レスリング男子・女子では日体大のOB・現役学生が5個の金メダルを獲得する快挙を成し遂げた。レスリング部の伝統と絆の強さが画期的な勝利をもたらしたと言えるだろう。

▷また、多くの日体大関係者が、パリ2024の成功を支えたことも忘れてはならない。昨今の気候変動、情報化への対応など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化している。それだけに、スポーツを軸に貢献できる場は確実に広がっている。アスリートやスペシャリストの世界舞台での活躍を励みに、一人ひとりの学生がそれぞれの目標に向けて努力を続けてほしい。

▷国内に目を向ければ、本学出身の大の里関が大相撲の記録を塗り替える躍進で大関に昇進した。レスリングと同様に、学生時代に監督・コーチの指導のもと、仲間と切磋琢磨してきた結果である。そこに、日体大の強さの本質をあらためて感じる。大の里関は、地震・豪雨の甚大な被害を受けた石川県の出身である。私たちが精進を続けることは、支えてくれる人々への恩返しとなる。日々、感謝の気持ちを忘れてはならない。

学報NITTAIDAI (ニツタイダイ) 78号

発行日●2024年11月1日

発行●日本体育大学広報課

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

<https://www.nittai.ac.jp/>

制作協力●(株)図書出版

nittaidai78 ● 2

Special Contents

03

パリ 2024 オリンピック・パラリンピック

未来へ向けて発信された
力強いメッセージ

<日体大関係者 メダリスト・入賞者・出場選手>

05

日体大レスリング部が五輪で快挙!
心をひとつに5つの金メダルを獲得

文田 健一郎 男子グレコローマンスタイル60kg級 金メダル

樋口 黎 男子フリースタイル57kg級 金メダル

日下 尚 男子グレコローマンスタイル77kg級 金メダル

清岡 幸太郎 男子フリースタイル65kg級 金メダル

藤波 朱理 女子フリースタイル53kg級 金メダル

松本 慎吾 レスリング部 部長・監督

湯元 健一 レスリング部 コーチ

13

スポーツ科学の分野から
選手・チームをサポートするスペシャリスト
大会・競技を成功に導くために求められる
役割と資質とは?

杉田 正明 体育学部 教授/ハイパフォーマンスセンター長

19

News & topics

令和6年度 日本体育大学「第61回 体育研究発表実演会」

日本体育大学公式アプリ誕生



未来へ向けて発信された力強いメッセージ

パリの中心部を流れるセーヌ川を船で入場行進する選手たち。歴史と文化が香るパリを舞台に数々の斬新な演出が話題となった。環境への配慮、女性参加率向上、世界平和といった社会的課題に対しても、セレモニーや大会運営を通じて力強いメッセージが発信された。「広く開かれた大会」のスローガンのもと、地球規模で新たな一歩を踏み出す革新的な大会であったと言えるだろう。その想いに応えて、日体大関係者をはじめとする日本選手団も大いに活躍し、世界の注目を集めた。

日体大の伝統、圧倒的な強みを見せたレスリング 東京大会に続いて、パラ競技も健闘

第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)は、2024年7月26日(金)～8月11日(日)まで、32競技329種目で開催された。日本勢が獲得したメダルは45(金20・銀12・銅13)で、アメリカ・中国に次いで第3位となった。また、パリ2024パラリンピック競技大会は、2024年8月28日(水)～9月8日(日)まで、22競技、549種目で開催され、日本勢のメダル獲得は41(金14・銀10・銅17)であった。

日体大関係者からは、オリンピック38名、パラリンピック10名の代表選手が選出された。日体大関係者のメダル獲得数はオリンピックとパラリンピックを合わせて15(金7・銀4・銅4)となり、東京2020に続いて好結果を残した。

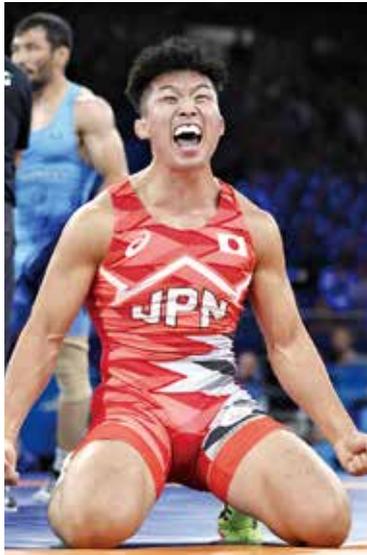
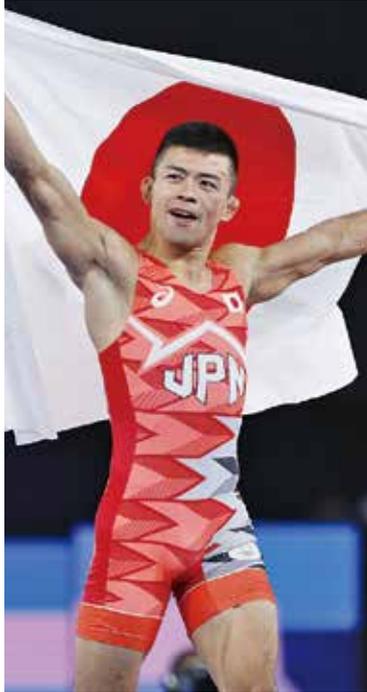
中でも、過去最多となる1大会8個の金メダルを記録したレスリングでは、そのうち5個を日体大勢が獲得。女子フリースタイル53kg金メダルの藤波朱理(体育学科3年)は、今回の五輪によって、中学時代から続く公式戦の連勝記録を137に伸ばした。そのほか、斉藤史弥(アーチェリー男子団体/体育学科2年)、牛奥小羽(体操競技女子団体/体育学科2年)が入賞に貢献するなど、在学生アスリートの今後へ期待がますます膨らむ大会となった。パラリンピックでは、代表経験者をはじめ各選手が安定した試合展開を見せ、メダル獲得・入賞を果たした。



パリ2024 オリンピック・パラリンピック

パリ2024 オリンピック・パラリンピック 日体大関係者 メダリスト・入賞者・出場選手

※五十音順(競技名)



【オリンピック】		
競技	氏名	種目・結果
アーチェリー	齊藤 史弥	リカーブ/団体: ベスト8
ゴルフ	中島 啓太	ゴルフ
7人制ラグビー女子	田中 笑伊	7人制ラグビー女子
7人制ラグビー女子	堤 ほの花	7人制ラグビー女子
7人制ラグビー女子	平野 優芽	7人制ラグビー女子
7人制ラグビー女子	松田 凜日	7人制ラグビー女子
7人制ラグビー男子	石田 大河	7人制ラグビー男子
自転車	川口 うらら	MTB XCO 女子
自転車	畠山 紗英	BMXレーシング 女子
柔道	阿部 詩	女子52kg級/団体: 銀メダル
柔道	阿部 一二三	男子66kg級/個人: 金メダル、団体: 銀メダル
水泳	蝦名 愛梨	オープンウォータースイミング
水泳	南出 大伸	オープンウォータースイミング
水泳	三上 紗也可	女子3m飛板飛込
水泳	坂井 丞	男子3mシンクロ飛板飛込
水球男子	足立 聖弥	水球男子
水球男子	渡邊 太陽	水球男子
水球男子	荻原 大地	水球男子
水球男子	鈴木 透生	水球男子
水球男子	伊達 清武	水球男子
水球男子	高田 充	水球男子
水球男子	大川 慶悟	水球男子
水球男子	荒木 健太	水球男子
水球男子	西村 永遠	水球男子
体操	牛奥 小羽	体操競技女子/団体: 8位
トライアスロン	小田倉 真	個人男子
バレーボール男子	高橋 藍	バレーボール男子/ベスト8 (7位)
バレーボール男子	山本 智大	バレーボール男子/ベスト8 (7位)
ハンドボール男子	元木 博紀	ハンドボール男子
ハンドボール男子	藤坂 尚輝	ハンドボール男子
フェンシング	東 晟良	女子フルーレ/団体: 銅メダル
陸上競技	福部 真子	女子100mハードル
レスリング	藤波 朱理	女子フリースタイル53kg/金メダル
レスリング	文田 健一郎	男子グレコローマンスタイル60kg/金メダル
レスリング	日下 尚	男子グレコローマンスタイル77kg/金メダル
レスリング	樋口 黎	男子フリースタイル57kg/金メダル
レスリング	清岡 幸太郎	男子フリースタイル65kg/金メダル
レスリング	曾我部 京太郎	男子グレコローマン67kg
【パラリンピック】		
競技	氏名	種目・結果
水泳	窪田 幸太	パラ競泳: 100m背泳ぎ/銀メダル、混合400mメドレーリレー (S8)
水泳	富田 宇宙	パラ競泳: 100mバタフライ/銅メダル、400m自由形/銅メダル、400mポイントリレー/6位 (S11)
卓球	友野 有理	パラ卓球/シングルス: 5位、混合ダブルス(クラス8)
馬術	吉越 奏詞	G II
バドミントン	今井 大湧	パラバドミントン男子/シングルス: 5位、混合ダブルス: 7位 (SU5)
バドミントン	梶原 大暉	パラバドミントン男子/シングルス: 金メダル、ダブルス: 銅メダル (WH2)
陸上競技	兎澤 朋美	100m、女子走幅跳/5位 (T63)
陸上競技	辻 紗絵	100m、400m/7位、4×100mユニバーサルリレー/4位 (T47)
陸上競技	福永 凌太	400m/銀メダル、男子走幅跳/7位 (T13)
陸上競技	新保 大和	円盤投げ/4位 (F37)



パリ2024 オリンピック・パラリンピック
メダル獲得数(日体大関係者)

オリンピック



パラリンピック





パリオリンピック・レスリング競技の初日から金メダルを獲得し、今大会を通じて5人の金メダリストを輩出したレスリング部。

今回はOB・現役学生を合わせた5人の選手と、監督、コーチが勢揃い！

普段から練習場で顔を合わせ、オリンピックでも深い絆で結ばれた

OB陣と現役学生ながら優勝街道を爆進している3年生の藤波選手が

メダリストになった実感やオリンピック中のエピソードなどを語り合います。

世界の頂点を極めた5人の話から、未来へのヒントを探してください。

(出席者) 松本慎吾 体育学部教授／湯元健一 体育学部助教

パリオリンピックレスリング金メダリスト

文田健一郎／樋口黎／日下尚／清岡幸太郎／藤波朱理

金メダルを手にした実感

— 文田選手と樋口選手は、前回の銀メダルから金メダルに登り詰め
たわけですが。

文田…スポーツ番組への生出演など、メディアの露出が増えたのは、3年前とは大きく違うところですね。そういう場所に胸を張って行けるとするのは、やはり金メダルを取ったからだだと思います。

もちろん「おめでとう」と言葉をかけてくれる人の数は変わらないし、その人たちの熱量も金メダルと銀メダルで変わりはありません。でも受け取る側としては、銀メダルを持って報告に行っても、本当は金メダルを見たいんじゃないかと僻みっぽく思っていました。僕はネガティブに受け取りがちなので、祝福を素直に受け入れられなかったです。

でも、今は素直に受け止められます。100%の気持ちで感謝も伝えられています。そこが1番、金メダルを取って良かったし、金メダルと銀メダルの差だと感じます。

樋口…そうですね。僕はそんなにネガティブではないので(笑)、たくさんの方が応援してくれたことに温かみを感じています。でも同時に、僕の本質的な部分は金メダルを取る前と取った後で、それほど変わってないと思っています。今は周りから持ち上げられて、みなさんから「おめでとう」と言ってもらえています。しかし、そういう時こそ自分の方向性や人間力を見失わないよう、地に足をつけてしっかりと周りに感謝していかなければと常々思っているところです。

— 日下選手と清岡選手は初のオリンピックでしたね。

日下…自分もネガティブではないので(笑)、純粹に嬉しかったです。



心をひとつに5つの金メダルを獲得

松本 慎吾

(まつもと・しんご)

体育学部教授 レスリング部 部長・監督
レスリング男子グレコローマンスタイル84kg級
・1978年3月3日生
・出身：愛媛県宇和島市
オリンピック ・2008北京84kg級：15位
・2004アテネ84kg級：7位入賞
アジア大会 ・2006ドーハ84kg級：銅
・2002釜山84kg級：金
アジア選手権 ・2008済州84kg級：金
・2005武漢84kg級：銀

文田 健一郎

(ふみた・けんいちろう)

レスリング男子グレコローマンスタイル60kg級
・1995年12月18日生
・出身：山梨県韮崎市
・現所属：ミキハウス
オリンピック ・2024/パリ60kg級：金
・2020東京60kg級：銀
世界選手権 ・2023ベオグラード60kg級：銀
・2022ベオグラード60kg級：銅
・2019ヌルスルタン60kg級：金
・2017パリ59kg級：金

日下 尚

(くさか・なお)

レスリング男子グレコローマンスタイル77kg級
・2000年11月28日生
・出身：香川県高松市
・現所属：三恵海運
オリンピック ・2024/パリ77kg級：金
世界選手権 ・2023ベオグラード77kg級：銅
アジア選手権 ・2024ピンケク77kg級：金

とにかく金メダルを取って良かったと思います。自分は相撲の経験があるので、大相撲の解説に呼ばれたりしましたが、それはやはり金メダルを取ったからです。パラエフィから解説まで、その辺の腕も今後は磨いていきたいです。

清岡..僕は初めてのオリンピックだったうえに、海外の大きな大会自体が初めてだったんです。そこで世界で戦うことの素晴らしさやすこさを改めて実感しました。自分よりすごい経歴を持つ方々と食事をさせていただくことも多いのですが、そういった方々からも「いやいや、オリンピックが一番すごいよ」「オリンピックの優勝ってすごいんだよ」と言ってもらえて、それで成し遂げたことの偉大さを改めて実感しているところで、そういうことも含めて、また次を目指したいと思える原動力になっています。

—藤波選手はいかがですか？

藤波..自分自身は何も変わっていないと思うのですが、周りの人の反応を見て、やっぱりオリンピックは他の大会とは何か違うところがあるのだということを感じています。今回の金メダルを通して、今までより応援してくれている人がさらに増えたという感じがします。そういう人たちとまた一緒に喜べるよう、これからも頑張っていきたいです。

—みなさん、「松本先生に金メダルを」という思いもありましたよね。

文田..ありました。そこはすごく意識していました。初日が僕だったので絶対に金メダルの第1号になろうと思って、松本先生に「金メダル第1号は僕なんで、ここは譲らないんで」と誓っていました。

日下..松本先生がいなかったら、自分がこの結果になることは絶対ありませんでした。みんな思いは同じなので、第1号の選手、健一郎先輩が先生にまず贈り物をすると思います。

文田..いや、同じ大会だから、そこはやっぱりみんなまで..

—そう言えば、男性の4人で時計を買ったそうですね。

清岡..はい、オリンピックモデルの時計です。先輩2人がそういう話をしていたので、自分たちも優勝したら絶対買おうと。僕らから見たら憧れの先輩で、目標にしてやってきたので、その選手と同じ大会で優勝して、同じものを同じところで買ったというのは嬉しかったです。



日体大レスリング部が五輪で快挙!

清岡 幸大郎
(きよおか・こうたろう)

レスリング男子フリースタイル65kg級
 ・2001年4月21日生
 ・出身:高知県高知市
 ・現所属:三恵海運
 オリンピック ・2024/パリ65kg級:金
 全日本選手権 ・2023:優勝

樋口 黎
(ひぐち・れい)

レスリング男子フリースタイル57kg級
 ・1996年1月28日生
 ・出身:大阪府茨木市
 ・現所属:ミキハウス
 オリンピック ・2024/パリ57kg級:金
 ・2016リオデジャネイロ57kg級:銀
 世界選手権 ・2023ベオグラード57kg級:銀
 ・2022ベオグラード61kg級:金

藤波 朱理
(ふじなみ・あかり)

レスリング女子フリースタイル53kg級
 ・2003年11月11日生
 ・出身:三重県四日市市
 オリンピック ・2024/パリ53kg級:金
 世界選手権 ・2023ベオグラード53kg級:金
 アジア選手権 ・2023アスタナ53kg級:金
 ・2022ウランバートル53kg級:金

湯元 健一
(ゆもと・けんいち)

体育学部助教 レスリング部 コーチ
 レスリング男子フリースタイル 60kg 級
 ・1984年12月4日生
 ・出身:和歌山県和歌山市
 オリンピック ・2012ロンドン60kg級:
 5位入賞
 ・2008北京60kg級:銀
 ・2011イスタンブール
 60kg級:銅
 世界選手権



パリオリンピックピックを 振り返って

—まず金メダルを最初に獲得した文田選手から
お願いします。

文田…全体の山場が準決勝だったこともあり、準決勝の後に3年前の東京オリンピックでの決勝を思い出しました。その時は負けてしまったので、以来「あんな悔しさは味わいたくない」という気持ちが強かったのです。だから無理に自分を出したいというより、どんな内容でもいいから、もうただ勝てば良いと。決勝の前の夜は「晩それを考えながら過ごしました。

勝った瞬間は、3年前とは全く違う感情が湧いてきました。それは飛び跳ねて喜ぶというようなものではなく、喜びというよりもホッとするような安堵です。家族も目の前で応援してくれていま



文田 健一郎
(ふみた・けんいちろう)

したが、奥さんも同じような感じでした。僕と同じ感情で、同じ熱量で、この3年間を過ごしてきたのだと思いました。

—樋口選手は文田選手とは同級生、学生時代から良きライバルですが。

樋口…そうですね。僕も前々回のリオが銀メダルで終わり、東京オリンピックでは出場自体を逃



樋口 黎
(ひぐち・れい)

してしまいました。周りからの応援やサポート、コーチの指導の熱量などは、今回もリオも、東京の予選の時も変わらないと思います。ただ自分がしてきた努力の中で何が足りず、どこかに

金メダルは努力の証明 各選手がベストを尽した

甘えがあったから金メダルに届かなかったんだと思っていて。でも今回のパリでは、試合の前日まで余すことなく、妥協する部分も一切なく、全ての練習をやり遂げてきた強い自信を持っていました。本番では気負うこともなく、ただやって、後は勝つだけという状況になっていたので、余り心配はなかったです。

実際に試合では本場に高いパフォーマンスを出せて、後は自分が世界で一番強い、この日本チームが世界で一番強いんだ！ということを実証するだけでした。リオや東京を経てパリに向かう中で、世界で一番練習をして、世界で一番いい食事や私生活を過ごしてきたのが勝つ要因だったと思います。



日下 尚
(くさか・なお)

—日下選手は、これまでの歴史の中で最も重い階級での金メダルとなりました。

日下…全ての試合を通して、自分のスタイルのレスリングができたのが大きかったです。決勝だ

けは、ちょっと自分のパターンにはめることができなくて少し焦りましたが、最後は根性と体力で突き破ったという感じです。

—藤波選手は連勝記録も続いていましたが、五輪は他の大会とは違いましたか？

藤波…自分の中ではグズマン選手(エクアドル)



藤波 朱理
(ふじなみ・あかり)

に去年の世界選手権で5点リードされたことがあるので、それがずっと頭にありました。今までは特定の相手に合わせた練習はしてこなかったのですが、今回はオリンピックに勝つためにグズマン選手への対策を行いました。先生やコーチの方とグズマン選手の試合の映像を見ながら、対策を初めてやりました。試合ではその結果をしっかり出して勝つことができました。今回は相手への対策をして勝つという経験を得られたのも大きかったです。

—最終日に出場した清岡選手は、他の皆さんが金メダルを獲得していく中でプレッシャーもあつたのでは？

清岡…いや、僕はそういうのが本場になくて。むしろ初日に健一郎先輩が決勝進出を決めてメダルを確定させた時から、早く試合をしたいという気持ちで過ごしていました。だから試合まで



清岡 幸太郎
(きよおか・こうたろう)



松本慎吾
(まつもと・しんご)

—松本先生、こんな頼もしい選手たちですが、それぞれの頑張ったと感じた部分を。
松本…金メダルをとった5名は本当によく頑張っ

清岡…みんな先に試合が終わったので、その後はもう時間がフリーなんです。朝の計量に行く時も「よし頑張つてこいよ」みたいな感じで送り出すのですが、僕の時は誰もいなかった。みんな遊びに行っちゃって、寂しい。それで会場に到着した時には、なんかもうむくんだ顔で「おお、頑張れ」って。

日下…でも健一郎先輩の1日目の決勝は観に行っただけど、2日目の僕から来なかったよね。

試合でも、海外の観客の方たちが日本の選手のプレイスタイルや活躍をよく理解してくれていて、それが日本選手への応援につながっていました。みんな個人では自分のために戦っているのだから僕が勝手に思っているだけですが、いろいろな刺激を受け、本当にそういう良い流れができて自分の試合に繋がったと思います。

がめちゃくちゃ長くて。健一郎先輩の決勝も観に行きましたが、興奮しちゃって、早くやりたいという気持ちが強くなって抑えるのに必死でした。みんながほとんど金メダルを取っていくので、プレッシャーというより、これはもう自分も金メダルを取る流れやな、みたいな。それが自信につながって、不安感も一切なく、試合のマットに上がることができました。



湯元健一
(ゆもと・けんいち)

—湯元先生も、改めてこの結果をどう感じていますか。

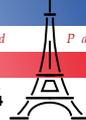
松本…これまで教えてきたことが間違っていたかという証明にもなったと思います。日体大に指導者として戻って15年経ちましたが、指導者側も夢を追い求めている中で、思った以上の結果につながったのは嬉しいことです。女子にもオリンピックでの金メダルの歴史が誕生したので、2人目、3人目と、女子の方でも伝統をつなげていきたいと考えています。

—これまでに育ててきた選手は最高が銀メダルでしたが、一気に金メダルを5つも獲得しました。
湯元…清岡選手は、もう待ちくたびれてないかな、とは思いました。あんまり試合会場に行きすぎると疲れるんじゃない？という話もしたことがあります。
僕は文田選手の最初の準決勝までは移動中で見てなくて、空港に着いて結果を知るという形でした。着いてみたら勝ったと聞いて、それもライバルの選手だったので、嬉しかったですね。これまでの苦労を見ているので、オリンピックの準備をしてコンディションも合わせて、本当に勢いもたらしてくれました。着いた瞬間からすごく良い雰囲気を感じました。

たと思います。
でも、もう一人代表である曾我部選手は初戦で敗退してしまいましたが、教え子の一人として同等に頑張ったと思います。
湯元…清岡選手は、もう待ちくたびれてないかな、とは思いました。あんまり試合会場に行きすぎると疲れるんじゃない？という話もしたことがあります。

湯元…金メダルの神が降りてきたようだという価値観は一緒ですが、取り易さがすごく下がったと思います。あれだけ毎日のように金メダルが日本から誕生するのを見て、金メダルを取る方法、今までは神格化していて難しいものと思っていましたが、努力の方法が変わるんだと。目の前にこれだけの金メダルがあるのは不思議な感じでした。





日体大レスリング部の強み

「日体大のレスリング部
もう誰もが憧れる強豪校
ですが、強みは何だとお考
えですか。」

文田…レベルが高いとい
うのは勿論ですが、選手
層が非常に厚いですよね。
OBもいっぱい残っている。
僕個人の経験で言うと、
大学に入って1年目から、
世界で戦っている選手が毎
日練習していて、その選
手と自分の差を感じなが
ら練習できるのが大きいで
す。

毎回の練習の中で、自然
に世界の中での自分のポジ
ションがわかるので、そこ
が強みです。

普通、大学に入るとまず
は環境に慣れるところから始まって、じゃあ東
日本の大会で勝とう、次は大学で1位になっ
て、そこから日本一を目指すみたいになりま
すよね。だんだんとレベルアップして、目標
もその度が変わっていくと思います。

でも日体大のレスリング部は、入部した時か
ら常に自分と世界との差を感じながら練習が
できるので、そうしたステップを全て取っ
てしまうことになりました。上を目指している
選手にとって、最終目標に近い位置にすっ
と入
れるのが良いところでしょうか。

そこが他の大学にはなかなかできないよう
です。世界レベルの選手は、1人か2人という
大学が多いですね。でも日体大では各階級
で、世界で戦った選手がいるので、そこが僕

受け継がれるブランド

iversity Wrestling Club



が一番良かった。だから強くなれたのだろう
と思います。

樋口選手はどうですか？

樋口…僕は日体大の強みは環境が整っている
ところだと思っています。ただ単に設備が充
実しているだけではなく、最高のスタッフ陣に
よる最高の指導、栄養や解剖学などの授業も
たくさんあり、練習の内容も他の大学とは頭
一つ抜けて高いレベルです。

練習も内容だけではなく、意識的な問題も大
きいです。世界で戦っている人たちと毎日練
習や話しをする中で、どういうメンタリテー
やマインドで、どういふものを食べて、どう
いう生活をして、どういふ練習をしているの
かを間近で見ることが出来ます。

ただし環境が整っている分、ちゃんとした意
思を持てるか、正しい方向性を持てるか、と
いうのは選手一人ひとり次第です。伸びしろ
は無限にあります。環境に甘えるだけでは
ダメだというふうに思います。

清岡選手は、そんな樋口選手と一緒に切磋球
磨してきましたか？

清岡…そうですね。そういった環境の要素
もありますし、僕は歴史と伝統が他と違って
いることも大きいと思います。オリンピックや
世界の舞台で戦ってきた方々が指導陣として
コーチをしてきていますし、先輩として、
OBと一緒にレスリングをしてくれます。
今の学生がどれくらいそれを感じているかは
分かりませんが、それが日体大ブランドです。
日体大のウェア、シングレットを着て試合に出
るからには、それに見合った戦いをしなきゃい
けない、チャンピオンとして戦わなきゃいけな

いという自分へのプレッシャーもあります。もちろん、自分がその舞台上上がるためには、OBの先輩方などの強い選手でも倒していかなければなりません。下からの追い上げもすごいですから、現状に甘んじていたら倒されてしまつて、トップには立てません。そういった環境があるので、常に進化し続けたいといけないうというの、厳しいながらも素晴らしい環境だと思います。

―日下選手は松本先生に特に胸を借りてきたと思います。

日下…はい、そうですね。大学1年生の時から、尋常じゃないぐらい練習してきましたんですよ。そのおかげで今回勝てましたが、本当に松本先生と、授業の合間をぬって練習して。本当にしんどい思いはしましたが、練習して良かったです。自分もきついですけど、松本先生もきつかったです。ではないでしょうか。朝起きて、練習して、お昼休みも練習して、午後練習して寝る、そんな生活を繰り返してきました。もう夢にまで出てくる程ですけども、本当に感謝しかありません。携帯もマナーモードにして電話が鳴らないようにしていますが、松本先生からだけは鳴るように設定しています。

―藤波選手はレスリング部女子で初の金メダリストですね。

藤波…男子は本当にすごい歴史を持っていますが、女子もこれからは負けないぐらい頑張っていきたいと思っています。レスリング場までの廊下を通る時にオリンピックのメダリストの写真がたくさんありますが、自分も絶対ここに載りたいと思いつながら通っていました。自分

世界に最も近い環境

Nippon Sports Science Un



も先輩たちにそう思ってもらえるような選手になりたいと思います。

―松本先生、4選手の学生時代はどんな学生でしたか？

松本…まず樋口選手は、私へ片足タックルに入った時に、大体の学生は私の足が太いので手が離れるのですが、ずっと離れない。そこが他の選手とは違うと入部当初から思っていました。そして大学3年生の時にリオに出て銀メダルに終わったんですが、すごい選手に成長したと感じていました。

文田選手に関しては、お父さんが日体大レスリング部出身で、小さい頃からグレコローマンスタイルの基本的な部分をやってきました。それで日体大に入った段階で、グレコで将来は世界一を取るだろうと思っていました。

日下選手は、一年生の頃から授業の合間に練習する中で、逃げるにそれを継続する、やはり努力できる人間であると。そういう選手だからこそ、メダルという結果につながったと思います。例えば、眠いから別の理由を付けて「今日はやれません、授業があるので」などということもなく、授業の合間や、やらないといけない仕事があっても、今日も練習には来ると思っていました。

清岡選手は、高校一年生の時から高知県から夜行バスで週末日体大に練習に来て、また地元に戻って授業に出る。恩師の櫻井先生が非常に熱心な方で、みんなそうなんですが、生まれ育った環境や携わった人たちのおかげで、ここで結びついて、それが最終的に日体大に入學して、結果を残してくれたということだと思います。

—みなさんから現役学生や、これから入学する高校生にアドバイスやエールを送ってほしいと思います。

文田.. 今回のオリンピックでの活躍を見て、憧れとかすごさを感じたと思いますが、そうした気持ちを持ち続けてほしいと思います。その中には、ちょっとした妬みのような部分もあるでしょうが、そういう部分が一番大事です。その憧れの選手と一緒に練習をするというのが成長への一番の近道です。憧れた気持ちに素直にしたがって自分の進む道、今やるべきことを決めてください。

樋口.. 僕は逆に憧れないといつことを言いたいです。オリンピックを目指していく中で、「あの人はすごいからオリンピックでメダルを取ったんだ」と思ってしまうことがあります。そうではなく、誰にでも平等にチャンスはあります。次の4年後のオリンピックの予選まで、日数は決まっています。自分では無理だという気持ちを一切捨てて、例えば、今回金メダルを取った文田選手の練習を参考に、どうやれば勝てるのかを常に研究していけば、その積み重ねで必ずチャンスがめぐってきます。

—日下選手は本当に日体大に入学しなかったとお母さんから聞いています。

日下.. 今だから言える話ですが、日体大に入学するかどうかで、母と3日間ぐらい口をきかず喧嘩をしていました。自分は文田選手や樋口選手を見て憧れている中学生、高校生でしたから日体大に入学しないと強くなれないし、レスリングするなら中途半端にはやりたくなかったんです。

そういう経緯で日体大に入学したので、自分は思いの強さが一番大事だと思っています。思いが

金メダリストからのメッセージ

教育研究棟

NSSU NSSU



強いから、きつい時も体が動きます。自分は高橋尚子さんから名前をいただいているので、オリンピックで優勝するのは必然で、そういう星のもとに生まれてきたんだと。それぞれのやり方は違っても、みんなそれぞれが思いの強さでやってきたと思います。

—清岡選手はいかがですか？

清岡…常に感謝の気持ちや幸せを感じて生活をするのだと思います。1人では成長できないですし、レスリング競技も1人で強くなるのは絶対に無理です。誰かの支えや練習相手がいる中で成長ができるので、そこへの感謝の気持ちは常に持つておくべきです。そうすることで感謝に応えたい、恩返しをしたいという気持ちになって成長につながる原動力になります。そこを忘れてしまうと、ただ競技力があるだけの人間になってしまいます。アスリートは人間性の部分も磨いて、憧れられるような、応援される選手を目指すべきだと思っています。

加えて、一日一日をしつかり幸せを感じて終わるということなんです。一日を振り返った時に失敗も次の成長につながる幸せのように感じていけば、失敗を恐れずチャレンジできると思います。勝ったから幸せじゃなく、幸せだから勝つという言葉が僕の中にあつて、それを実行していけば、より成長につながると思っています。

—藤波選手は現役の学生ですが、学生生活の中で何かポイントがあれば。

藤波…自分はウエイトトレーニングと、心理サポートや栄養サポートについて、日体大のNASを利用しています。自分がかからない部分も一緒になって戦ってくれたので、本当に感謝しています。あとは同じクラスに冬季の世界チャンピオンがいて、そうした他の競技との関わり

りも日体大にはあるので、そういう環境を積極的に活かして学生生活を送っています。

—将来は、どのように描いていますか？

文田…今は4年後のロスについて言及できるほど気持ちが高まっておらず、過去の自分にも、今目指している選手にも失礼なので、オリンピックで二連覇なんて絶対言わないようにはしています。ただ、レスリングをやめる気はありません。レスリングへのモチベーションや向き合い方とか



がどう変わっていくのかを楽しみながら、引き続きレスリングに取り組んでいきます。

樋口…僕も、次のオリンピックを目指すかどうかは分かりません。ただヨーロッパのレスリング

は学生の頃から遠征して各地を見てきましたが、アメリカに行ったり見たりする機会がほとんどなかったもので、どういった練習をしているのかに興味があります。この一年は、まずはニューヨークの近くのコーネル大学やリーハイ大学などに行つて、そこで見て感じてきたいですね。

長期では、やはりアスリートとして、スポーツの

力を武器にして社会全体を明るくできるような行動をとれる人間になっていきたいです。

—目下選手と清岡選手はドイツに行くという話ですね。

目下…このオリンピックで優勝して人生変わるぞと思ってきましたが、今は正直、二連覇とかは考えていません。でも言い方は良くないですが、経験したら離れられないくらいの中毒性のある舞台。オリンピックでしか味わえないものを感じています。

チャンスは誰にでも平等。

感謝の気持ちを忘れずに。

あと、高橋尚子さんに「これで尚という名前を追うのは終わり、これからは尚じゃなくて目下尚のストーリーを創っていくてね」と言われたので、これからは目下尚のストーリーを創っていくたいです。

清岡…これからは二連覇を目標にやっていきますが、それも直近の目標です。僕の目標はとって

もレスリング好きなので、レスリングをメジャースポーツにするのが、今回オリンピックで優勝して改めて出来た目標です。そのためにオリンピックで二連覇すれば注目度もアップしますし、そこ

からシンボルアスリートの存在になったら、小柄な選手も目指してくれたりするかなと。約20年間、育てていただいたレスリングという競技をもっと広めていくことも考えながらやっていきたいです。

藤波…今までハリオリンピックの後とかは考えず、それだけを目標にやってきました。それが終わって1ヶ月半ぐらい、これまでにないぐらいレスリングと距離を置いて、我慢してきた美味しいものを好きな時に食べるという、普通の大学生活

をしてきました。でも、目標に向けて練習を頑張っている時の食へものは本当に美味しいけれど、通常に何かを食べる時の幸せはどこか違つて感じています。自分は目標に向かっている時が一番生きてる感覚がして、一番楽しい。だからまた頑張りたいと思います。

ロスの二連覇ももちろんですが、その前に名古屋でアジア大会が行われるので、そこで地元の方に応援してもらいながら優勝するのが今の目標です。

Nippon Sports Science University
Wrestling Club

(取材日…令和6年9月)



チームをサポートするスペシャリスト 求められる役割と資質とは？

を務め、東京・パリオリンピック等の世界大会の支援に携わってきた杉田正明教授。スポーツを支えるためには、豊富な経験とともに、現在進行中の研究やこれからのことなどもお話しいただきました。



気温が上昇し、最高気温は37.5°Cとなり、22時時点でも31.8°Cと高い気温が観測。予報では30°Cを超え、WBGTも31.7°C（運動は原則中止）まで上昇するなど、暑さの厳しい環境下で、黒球温度は11時～21時まで50%未満となり、日中は30°C台まで低下するなど変動していた。

杉田 正明

体育学部 教授（ハイパフォーマンスセンター長）

専門分野はコーチング科学（運動生理学、トレーニング科学、バイオメカニクス）。

（公財）日本オリンピック委員会（JOC）や（公財）日本陸上競技連盟などの科学スタッフの一員として、オリンピックや世界選手権代表選手の強化支援に関わる医科学サポート活動を行ってきており、国際競技力向上に関する支援活動に携わってきた。2010FIFAワールドカップでは、40日間日本代表チームに帯同し、高地対策やコンディション管理を支援し、ロンドン、リオデジャネイロオリンピック等では競歩、マラソン代表選手をはじめ多くの選手の科学的支援を行い、東京、パリオリンピックでは日本代表選手団の本部役員（情報・科学担当）として貢献。

<Part1・オリンピック等における活動>

綿密な事前準備から始まるオリンピックの仕事

オリンピック日本代表選手団本部の構成と、情報・科学担当の役割について教えてください。

選手団の本部役員は、団長をトップに副団長が3名、その下にそれぞれの専門性に応じた担当者が5名、さらに本部員が23名、全部で32名の本部体制で選手をサポートしています。その中で情報・科学担当というのは、実は前回の東京オリンピックの時に暑さ対策が必要ということで初めて設けられました。

役割のうちの一つは、選手団のトピックスの整理とまとめです。例えば、記者会見での資料になるような分析資料の作成です。目標のメダル個数や有力選手の状況など現在どうなっているのか、というような詳細な戦況分析をして団長、副団長に的確な情報を伝えることです。

それから、チームジャパンニュースレターというものを2日に1回のペースで発行し、選手団の競技団体の担当者や関係者など110名ほどに向けて発信しました。ネット上のニュースなどを含む様々な公開情報を収集、整理し取材して知り得た選手村内の機能や各国の取り組みなどの情報などを編集し、配信する作業です。

オリンピック期間中、選手村にいますとどうし



TEAM JAPAN News Letterの発信も担当

スポーツ科学の分野から選手・大会・競技を成功に導くために

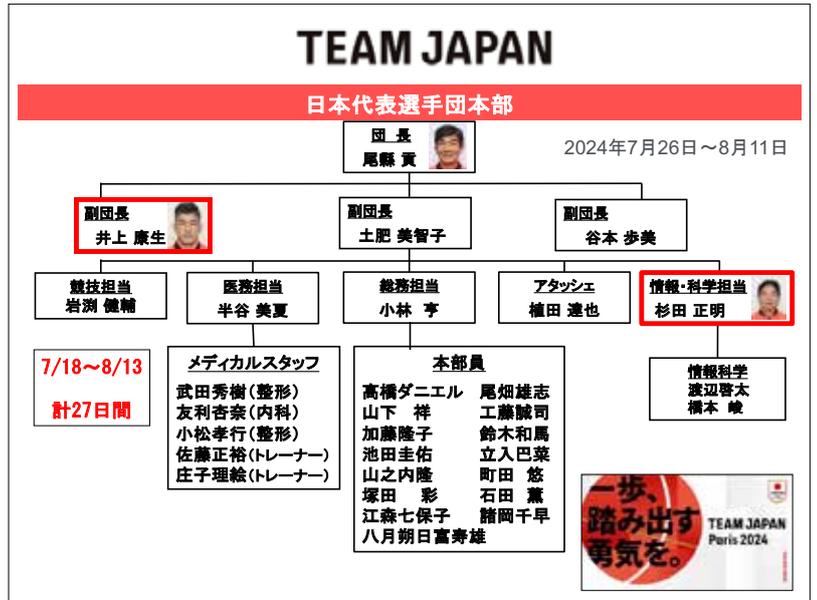
スポーツ医科学の専門家として、またJOCをはじめ多くのスポーツ関連団体・学会・委員会・プロジェクトで要職知識や技術だけではなくその場のニーズを汲み取る「感性」が大切とのこと。これまでの



業務の中でも暑さ対策は極めて重要だったので、毎日気温等を計測してLINEグループに載せる作業もありました。最高気温が30度以上の日が11日もあったり、雨が降った日は非常に寒

でも情報も入りにくくなるので、外部の情報を提供することは大切なことだと思います。ですので、毎朝7時から団長と井上副団長とだいたい3人で焼きたてのフランスパンとコーヒーで朝ミーティングをして、様々な情報の共有を図りました。

パリオリンピックでは具体的にどのような業務に携わりましたか？



TEAM JAPAN オリンピック日本代表選手団本部の組織図



TEAM JAPAN向け気象サイトを構築

かったり、寒暖差が選手たちを苦しめました。涼しい日が2日続き翌日に30度を超えると、ものすごく暑く感じるんです。それで熱中症になった選手もみられたようです。このように気象というのは選手にとつてもスタッフにとつても非常に大事なので、ウェザーニューズの協力を得て各競技の選手やコーチが自分の競技会場の天気を1時間ごとに確認できる気象予報サイトも作りました。天気、気温、湿度、風向き、などを細かくチェックできます。こういうシステムは事前の準備段階でつくるので、仕事は大会期間中だけではありません。

他にも重要な仕事として、外国のチームがどんな取り組みをしているか調査するという任務です。例えば、選手村でアメリカチームの棟に行き、知り合いの役員に中を見せてもらいました。アイスバス(水風呂)を持ち込み、ジムを設置したり、鍼灸師やカイロの専門家を帯同して施術用ベッドを持ち込みケアしていたり、選手がリラクセスできるカフェテリアや部屋を用意していました。全部で10か国の棟内の詳細について



アメリカチームの選手村を視察

訪問調査を行い報告書にまとめました。また、選手村の外にサポーターハウスを設置している国々もあり、いくつか調査を行いました。医科学サポート機能を有する村外拠点の有無が競技力に大きく影響することが理解できました。

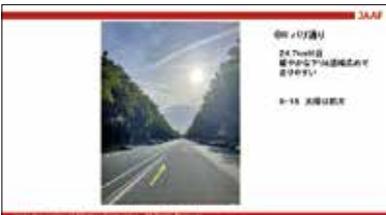
東京とパリ、それぞれのオリンピックではどのような苦勞がありましたか？

東京のときは、コロナ禍でほとんど事前の打ち合わせができず、「暑さ対策を任せるからよろしく頼みます」と言われただけでした。コロナ対応に追われて大変な状況の中だったので、現場の状況を観察してやるべきことをその場で自分で考えていきました。他国の状況を調べようとか、気象を選手村で測ろうとか、行ってみて分かることや気づくことをその都度仕事にしていって、いかに想像力を働かせてやれるかがどうかが求められました。

東京が暑いのは分かっていたのですが、「体育館などの屋内競技はどうなのか？」と気づいてトラポリン会場に行き、気温を測ると20度を下回っていました。その環境の中で多くの選手たちは薄



パリではマラソンコースを視察し選手に情報提供



今回のパリでは、マラソンや競歩の暑さ対策サポートとして選手の汗を測定し、どんな栄養素が失われやすいかを調べたり、コースの分析をしたりしました。マラソンのコースにもすごい坂があったので、徹底的に坂

競技のサポート面ではどのような業務に携わったのでしょうか？

パリでの苦労は、やはり気象が荒れたことです。実は我々は過去10年以上の気象データも全て調べており、9割以上は晴れると伝えていたんですが、実際には期間中に雨が5日間降って開会式もずぶ濡れになりました。選手団には事前に暑くなるのが予想されるが、過去には朝から10度台で推移した年もあるため暑さ、寒さの両方対策が必要だと伝えていました。

いジャージでしたが、中国の選手たちだけが厚手のウオーマーをしっかりと着ていました。こういう細かい準備や対策のために我々が情報をまとめ、資料を固として共有していくことが次に生きてきます。夏季の競技であったとしても、屋外と屋内では違うということに気づける感性と想像力が必要です。

これまでにマラソンや競歩選手の高地トレーニング合宿に帯同して体調管理を行ったり、その他サッカー、トライアスロン、トラップリン、卓球、テニス、セーリング、ブレイクン、フィギュアスケート等の日本代表選手を対象としたコンディショニングサポート(寒さ対策・暑さ対策を含む)に関わってきました。東京オリンピックの時には国の委託事業でスペシャルドリンクの粉末を作りました。安静

用と運動用があり、市販されているドリンクでは足りない、汗で失われてしまう成分を全部網羅したものです。好評で、今回のパリでもいろいろな競技で活用され、複数の競技でメダル獲得につながったと聞いています。足

が痙攣しやすかった選手が、これを飲んでから角度などを調べてマラソン強化担当者と一緒に182枚のスライドや動画を作り、どこを注意すべきかというアドバイスも含めた資料を選手に提供しました。現地に行かなくてもこれらを見ればコースの全てが分かるように網羅されています。

オリムピック以外ではこれまでにどのような活動をされてきたのでしょうか。

これまでにマラソンや競歩選手の高地トレーニング合宿に帯同して体調管理を行ったり、その他サッカー、トライアスロン、トラップリン、卓球、テニス、セーリング、ブレイクン、フィギュアスケート等の日本代表選手を対象としたコンディショニングサポート(寒さ対策・暑さ対策を含む)に関わってきました。東京オリンピックの時には国の委託事業でスペシャルドリンクの粉末を作りました。安静

用と運動用があり、市販されているドリンクでは足りない、汗で失われてしまう成分を全部網羅したものです。好評で、今回のパリでもいろいろな競技で活用され、複数の競技でメダル獲得につながったと聞いています。足

が痙攣しやすかった選手が、これを飲んでから角度などを調べてマラソン強化担当者と一緒に182枚のスライドや動画を作り、どこを注意すべきかというアドバイスも含めた資料を選手に提供しました。現地に行かなくてもこれらを見ればコースの全てが分かるように網羅されています。

オリムピック以外では、1991年に日本陸連の科学委員会委員(2012年から委員長)になってから34年にわたりトップアスリートの科学的支援を行ってきました。また、JOCの情報・科学サポート部門長を2008年から務め、幅広い競技のサポートにかかわってきています。2021年12月にJOC内にパリオリンピック対策プロジェクトができ、リーダーの井上康生さんとともに、サプライダーとして何十回も会議を重ね、準備を進めてきました。

これまでに特に印象的だった仕事や、転職となった仕事があれば教えてください。

2010年FIFAワールドカップは、僕にとつてもすごくエポックメイキングな帯同でした。なぜなら他の活動とは注目度が全然違ったからです。他の大会だと私たちがどのような縁の下で力持ちに焦点が当たることはほとんどないのですが、ワールドカップは特別でした。テレビ、新聞、雑誌関係者から取材の電話が鳴り止まず、大いなる覚悟と勇気が必要だと感じたからです。

私は高地利ーニングの研究者でもあり、当時は他大学の教員で、主に陸上競技が専門でしたが、岡田監督(当時)からお声がかかり、会ってお話したら「先生、来てよ」と



毎朝のコンディショニングチェック(尿検査)

カメルーン戦に勝利した後のスタッフと(南アフリカ)

<Part2・スポーツを支える立場で活躍するためには>

専門以外にも様々な分野への興味と関心を持つことの大切さ

スポーツ医学を目指したきっかけは？

もともと陸上競技の長距離をやっていた。長距離選手はものすごい練習をするのに疲労回復についてあまり考えられていないと思っただけです。一生懸命トレーニングしても、疲労回復させるだけではダメで、エネルギーつまり気力と体力を充電してから次の試合に挑むことが大事です。その辺りの科学的エビデンスというのが、あるようではなかった。だから、そういうものを測ればそれが分かるのか、確認できるのか、ということを探求したいと考えるようになりました。



た。それから、トップアスリートの身体的特徴や科学サポートということにも興味がありました。

先生の専門分野について、現在特に力を入れている研究テーマや今後取り組んでいきたい課題について教えてください。

私の主な研究方法である運動生理学とは、運動中の体内で発生する現象や変化のメカニズムを明らかにする学問です。競技バ

フォーマンスを上げるためにはデータの蓄積が大切で、定期的に血液や尿を検査し、他にも様々な指標となる数値を測定します。それらを継続してデータ化することによって、問題点や課題などが見えてきます。それらを指導に役立ててもらうための実践研究がメインです。

今もつとも関心のある研究のひとつは、人工的なテントの中の酸素を薄くし、どのように低酸素トレーニングを行えば効果が大きいかを調べる研究です。我々のプログラムを用いてトレーニングした短距離選手が日本で一番になったりしています。

もうひとつは、コンディションニングです。いくら良いトレーニングをしても、睡眠と疲労回復が悪ければ良いパフォーマンスにはなりません。そこで、疲れ具合を調べるためには何を測ればいいのか？ どんなサプリメントを摂ればいいのか？ 何をすればリカバリーできるのか？（睡眠、入浴、酸素・水素吸入、特殊な電波など）ということをとータルで研究しています。

例えば、フィンランドで開発されたコンディションを可視化するリング（指輪）があります。コロナ禍のときにNBA全米バスケットボール協会がこれを何千個も買って全チームに配りました。コロナに感染しているか否かを調べるためです。朝起きて携帯電話に繋ぐとコンディションの点数が出ます。これは人それぞれの体温、呼吸数、睡眠パターンをもとに点数を出してくれるので、より自身の実感に近いものになります。この点数がいつも80の人がいきなり50に落ちて、病院に行ったら

コロナに罹患していたという。それくらい精度が高いリングなのです。時差からの回復もこれで分かるので、オリンピックの選手にも紹介しています。

これからツールやデバイスがどんどん小さくなり、より簡便に生体情報を取れる時代になるので、外国の情報もしっかりキャッチしながら、サポートしている選手に活用できるようにアンテナを立てています。

さらに、暑さ対策だけでなく寒さ対策について関心があります。簡単にいうと冬季オリンピックでの選手のパフォーマンスを上げるための寒さ対策です。これもコンディションニングの二環です。寒さ対策のメインは保温になるのですが、例えば衣類にファンヒーターのようなものを埋め込むとか、手のひらで握った体が温まるものとか、そういう装置の開発を協力企業と進めています。

まとめると今後は、コンディションの状態をより分かりやすく把握できるよう可視化につながる指標の探求、疲労回復の効果的な方法を追求すること、そして特殊環境（高地、低酸素、暑熱、寒冷）対策など、実践研究の対象は多岐に渡ります。



最先端のトレーニング方法を研究
(例：低酸素状態を再現したテント)



先生と同じ分野を目指すにはどうしたら良いでしょうか、またどのような能力や資質が求められるのでしょうか？ご自身が大切にしていることがあればぜひ教えてください。

まずオリンピックを目指すような競技団体で活動する場合がありますが、そこに至るには競技団体の医科学委員会などに入りサポートする道があります。ただ競技団体でそうしたスタッフを雇用しているところはほとんどないので、大学教員や関連企業に勤めながら兼任でボランティアでの活動というのが一般的です。職業にしたい場合は、国立スポーツ科学センターというスポーツ情報・医科学面から選手をサポートする機関があるので、そ

日体大は オリンピックに一番近い大学 自分から積極的に門戸を開いて 感性を磨いてほしい

この研究員や外部協力者になる道もありです。私のゼミの後に大学院に進学し、先生と同じ道を目指したいと言ってくれる学生も最近が増えてきました。

私のゼミに入らないとしても、今はネットでいろいろな情報を検索することができますから、自分の興味・関心のある競技や分野を調べて知識を蓄えることはまず必要です。そして、従来の枠組みや発想にとられない柔軟な思考も必要です。また、現場でコミュニケーションを取ってニーズを汲み取る能力も求められます。なので二人ですつとやってみるだけではスキルが磨かれません。いろいろなフィールドに飛び込んで行って、いろいろなものを見て、いろいろな人とディスカッションして、多様な価値観に触れ、物の見方、考え方を学んで欲しいです。同じものを見て、何を感

じますか。そこが大事だよと、よく学生に言います。つまり、感性と洞察力と想像力です。私も海外に行ったら現地の博物館や美術館にはなるべく足を運び、なぜこの絵の評価が高いのかな？とか自分なりに考えるようにしています。

前述のFIFAワールドカップで気づいたことですが、選手に馴れ馴れしく近寄らないというのは大事なことだと思います。本田選手や長谷部選手が目の前にいたら、話しかけたくありませんよね。でも高地トレーニングのコンディショニングをサポートするという立場で行っているのだから、余計なことは喋らず、あくまでコンディショニング面で心配なことがあれば声をかけるようにしました。そうしているうちに選手の方から自然に話しかけてくるようになる。そうなった時に初めて信頼関係ができます。

信用と信頼は違います。「長年高地トレーニングの研究をしてきた専門家だから呼ばれる」これは信用ですが、その人にいろいろなことを相談したり、アイデアを求めたり、「先生、もうちょっと長くいてよ」というのは信頼になります。だから信用から信頼に変えるために、私がかがけていることはどんな場面でも同じだと思います。

全員が全員「先生来てくれてありがとう」と思っているわけじゃないということを、競技団体のサポートをする時は肝に銘じています。だから、しっかりとしたエビデンスに基づき、自分の考えをきちんと伝える。その中でチームがいい方向に向かっていけば、この人が言っていることは確からしいと、なっ



W杯 帯同中に私自身が心がけたこと

- ・自分でもできることは積極的にやる
- ・挨拶はきちんとする
- ・食事（朝食）は必ず早めに行く
- ・選手にはなれなれしく近寄らない 報・連・相
- ・各スタッフとの円滑なコミュニケーション
- ・高地対策専門家としてのプライドを持つ
- ・世界で戦う覚悟と勇気を持つ

自分自身の体調管理は万全でなければならない

先生が心がけている帯同を成功させる秘訣

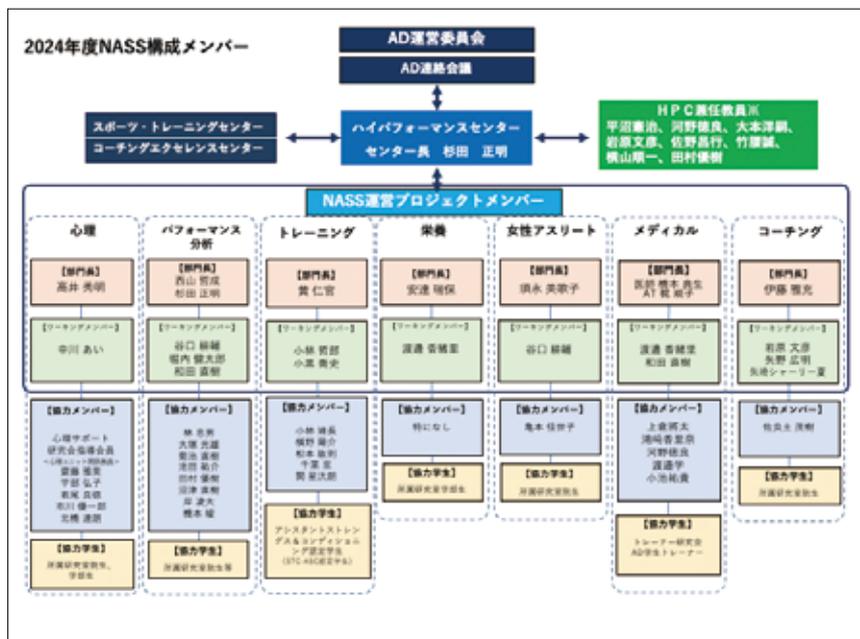
その一心で活動しています。そして、私自身はいつも求められたら役に立ちたい。役に立つためにどうしたらいいかということしか考えていません。とにかく現場の選手や指導者の方たちの役に立ちたい、その一心で活動しています。

最後に忘れてはならないのが、科学サポートが注目されるようになりつつあるとはいえ、同時に「勝てない」「負ける」などをサポートが悪いからだと言われ、責任を押し付けられることもあります。私も過去にありました。選手

だと思っています。競技の現場に関わるということは、実ははそういうことの連続だったりするのです。

どんな現場でもそうですが、尿や汗や血液を取って分析する時、できる限り選手に負担をかけない形を心がけています。現場でのサポートは研究でも論文を書くためのデータ集めでもなくあくまでサポートなので、選手に負担がかからず尚且つ有用なものだけをチョイスして、その場にアシヤストさせることを大事にして実学としてのスポーツ科学の有用性をフィールドワークで示したいと思っています。

パリオリンピック 日体大関係者写真



日体大NASS (アスリートサポートシステム)の専門スタッフ

NASS ホームページ →

やチームの勝ち負けの責任の一端を担う、かなり重い仕事だということは覚えておいて欲しいです。

この分野を目指す上で活用できる日体大のリソースと、日体大生の強みとはなんだろうか。

現在、私は日体大のハイパフォーマンスセンター長をしています。各専門分野の先生方に関わっていただき、多方面の分野から本学の学生アスリートをサポートするシステム(NASS)を運営しています。今、現場の選手や指導者を支える人材の育成を課題としているので、我こそはと思う学生さんにはぜひ協力学生として参加してくれると、サポートへの理解も深まり、その後の自分がどうしたいのか定まってくると思います。

そしてなんとと言っても日体大には選手、指導者、スポーツに関する分野の卓越した先生方、環境、システム、全てが揃っています。そしてオリンピックで一番メダルを獲得している大学ですから、つまりオリンピックに一番近い大学です。こんなに揃っている大学は日体大しかありません。私もこの一員になることができていることに感謝しています。ですから、何事にも知的好奇心・探究心、情熱を持ってどんどん自分から積極的に門戸を叩いて知識を深め、感性を磨きに行ってください。何ごとも最初からうまくいくとは限らないので、どんどん経験を積んで自分に磨きをかけてもらえればいいと思います。次に続く若人に期待しています。

令和6年度 日本体育大学「第61回 体育研究発表実演会」

「第61回体育研究発表実演会」を以下のとおり開催いたします。
学生たちの躍動を、あの感動を是非会場で体感してください。

今大会には、パリオリンピック・パラリンピックの選手たちも報告会
に出席する予定です。

また、「陸上自衛隊第1師団第1音楽隊」の出演が決定いたしました。
本大会に演奏で花を添えていただくことになります。お早め
のご入場をお待ちしています。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

1. テーマ TOGETHER－共に－

2. 開催日時

令和6年11月26日(火)開場 16:30 開演 18:30
終演 20:00予定

3. 会場

【横浜アリーナ】

〒222-0033 横浜市港北区新横浜3丁目10番地

【最寄り駅】 JR・横浜市営地下鉄ブルーライン 新横浜駅

4. プログラム

<プロローグセレモニー> 18:00～予定

- ・救急医療サークル
- ・陸上自衛隊第1師団第1音楽隊

<開演> 18:30～予定

1. 体操競技 & トランポリン
2. 朝鮮大学校
3. キャンプ インストラクター アカデミー
4. 少林寺拳法
5. 新体操
6. チアリーダー
7. ダンス
8. レスリング
9. 体操
10. 集団行動
11. オリンピック・パラリンピック報告会
12. エッサッサ

※演目順は予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

<問い合わせ先>

日本体育大学 横浜・健志台キャンパス 学生支援センター

TEL 045-963-7905 (平日：8:30～17:00)



日本体育大学 公式アプリ誕生

日体大の最新情報をゲットしよう!

→
ダウンロード

フラッシュ通知でお知らせ
限定フォトフレーム
食堂メニュー
n-pass ログイン など

